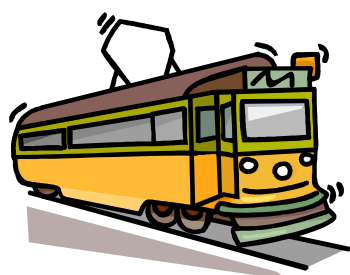


県庁内ベンチャー

電車でエコハイク

～線から面へつながる、ひろがる楽しみ～

提 言 書



平成18年9月

も く じ

I	はじめに ～心の豊かさとは～	1
II	社会を取り巻く現況	
1	福井の交通について	3
	(1) 公共交通機関の現状	
	(2) 福井の交通の現状	
	(3) クルマに依存しないライフスタイル	
2	観光・行楽の現状	5
3	福井県民の価値観	6
4	今後の視点（時代が求める豊かさ）	6
III	福井の豊かさの種（シーズ）	
1	「本物」の福井の豊かさの種	7
2	シーズを活用した公共交通の取り組み事例	10
IV	課題（点から線へ）	
1	個々の素材の限界	11
2	オンリー・ワンの提案	11
3	持続可能なシステムの提案	11
V	事業案	
1	新しい観光の足の提供	
1-1	観光型カーシェアリング事業	12
	(1) カーシェアリングとは？	
	(2) 福井型カーシェアリング事業の目的	
	(3) 事業概要	
	(4) メリット	
1-2	自転車の活用	13
	サイクルトレインの運行、レンタサイクルの活用	
	(1) サイクルトレインとは？	
	(2) サイクルトレインの目的	
	(3) 事業概要	
	(4) メリット	
2	企業等の協賛を受け行う公共交通と連携したサービスの提供	
2-1	テクノポート福井や県立大学、福井大学医学部などへの通勤・通学に 対する冬期間の公共交通を活用したサービスの提供	15
	(1) 現状	
	(2) 事業の目的	
	(3) 事業概要	
2-2	郊外型商業施設等が集積しているエリアへの通勤、買物利用に対する 公共交通を活用したサービスの提供	16
	(1) 現状	
	(2) 事業の目的	
	(3) 事業概要	
3	オンリー・ワンの提案	17
VI	ベンチャー的課題解決へ	
1	自律・持続が可能な「仕組み」へ	19
2	新たな組織の提案	20
VII	まとめ	21

I はじめに ～心の豊かさとは～

今回の県庁内ベンチャー事業の統一テーマである「量から質へ ～心の豊かさを考える」について、どのようなことが県民にとって心の豊かさにつながるのか整理しておきたい。

本県は、経済企画庁が実施した「豊かさ指標」や雑誌AERAが実施した「上流自治体ランキング」においてトップとなるなど量的な面では高い評価を得ている。特に、「働く・稼ぐ」、「住む・暮らす」という日常型のライフスタイルの項目では全国トップにランクされている。

しかしながら、「楽しむ・生きがい」、「学ぶ・育てる」といった項目では下位にランクされている。

交通に求められてきた「豊かさ」を考える場合、日本では、昭和40年代からの高度経済成長や人口増加を背景として、モビリティ（移動）の向上に対する欲求が強まり、単なる空間の移動から随意性や快適性といった付加価値要素が重要視されるようになってきた。それらに伴い、利用される移動手段は鉄道・バス等の公共交通機関から個別の移動手段である自動車（マイカー）へと移行してきた。

すなわち、20世紀の交通に求められてきた「豊かさ」とは、好きなところへ速く快適に移動できる「自動車」を所有し、その「利便性」を享受する豊かさであった。そして、それに対応するため政治・行政も道路整備を進め、多額の財源が投入されてきた。

しかし、21世紀を迎えた今、中心市街地の活性化、急速な少子高齢化への対応、大気汚染等の要因から引き起こされる環境問題など地域は様々な問題を抱えるようになってきている。

これらの問題に対し、公共交通機関、特に地方鉄道は、重要な役割を果たすものと期待されている。

現代は、めまぐるしく社会が変化し、価値観やライフスタイルが多様化しており、かつてないほど心の病が増加するなど、余裕のない社会となっている。

このような中、効率至上主義といったこれまでとは違う価値観を見つけることが重要であり、新たなライフスタイルを提案することが、心の豊かさに結びついていくのではないか。それはつまり、内面的にも時間的にも、ゆっくり、ゆったりと、心豊かに暮らせ、今、世間で評判になりつつある「スローライフ」的な生活であり、これこそが新しい価値観につながるものである。

福井県内においては、京福越前線の存続問題を通じ、このような鉄道、公共交通機関の役割が見直されるとともに、その利用促進運動を通じて、沿線沿いに魅力的な観光素材が数多くあることが分かっている。しかし、これらの要素をつなげ、連携を通じてお互いを活かし合い、全体の魅力を高める「プロデュース」の仕組みがなく、公共交通を使っただけの「体験」が事実上不可能と言っている状態にあることも事実である。

我々は、県民をはじめ県外の旅行者が県内の旅行・行楽等で移動する際、「クルマだけに頼らずに、地域の魅力を発見できる。」「不便さを我慢するのでなく、自動車運転等の負担が軽減できる。」「ゆったりと心豊かに県内各地を楽しめる。」などといった仕組みを創り、「豊かさ」をプロデュースし、これらを通じて地域全体の活性化につながるプランを提案していきたい。

Ⅱ 社会を取り巻く現況

1 福井の交通について

(1) 公共交通機関の現状

鉄道やバスなどの公共交通機関は、環境にやさしく、市街地の活性化などに果たす役割も大きく、学生や高齢者などの交通弱者をはじめ地域住民の重要な移動手段である。

公共交通機関を取巻く大きな流れとして、「モータリゼーションの進展」「少子・高齢化」による「人口減少、学生数の減少」「小ファミリー化」「都市中心社会」「地方の過疎化」などが挙げられる。

特に、本県は一世帯当たりの自家用乗用車の保有台数がＨ１３年度から全国１位（本県：１．７５台、全国平均：１．１１台）となっており、モータリゼーション化がもっとも進行している。

また、高齢者（６５歳以上）の人口に占める割合も２２．１％（Ｈ１６年データ）と全国平均の１８．５％（Ｈ１４年データ）より高い。

この他、商業施設や公共施設の郊外への立地が進んでおり、「中心市街地の空洞化」が見受けられる。

【自動車保有台数と高齢化率】

	Ｈ 7	Ｈ 1 3	Ｈ 1 6
一世帯当たり台数（台）	1.45	1.69	1.75
〃（全国）（台）	1.00	1.09	1.10
全国順位	4	1	1
高齢化率（65歳以上の割合％）	17.7	21.1	22.1

出典：「わが国の自動車保有動向」（財）自動車検査登録協会、「福井県の推計人口」

最近１０年間の推移では、鉄道（ＪＲ、えち鉄、福鉄）が、Ｈ７年度１，８８５万人であったものがＨ１７年度には１，５１３万人と約３７０万人、２０％の減、バス（京福、福鉄、大和交通）では、Ｈ７年度１，１８９万人であったものがＨ１７年度には７３８万人と約４５１万人、３９％の減と、一貫して減少の傾向ではあるが、Ｈ１７年度については、鉄道、バスを合わせた全体の利用がはじめて前年に比べ１．２％上回るなど、若干ではあるが明るい兆しも出ている。

【輸送人員の推移】

(単位：千人)

	H 7	H 1 6	H 1 7	対前年比
J R 線	12,860	10,612	10,701	0.8%
えちぜん鉄道	—	2,425	2,795	15.3%
福井鉄道	2,402	1,621	1,632	0.7%
乗合バス	11,885	7,562	7,375	▲2.5%

出典：「福井県統計年鑑」、「数字でみる中部の運輸」（H17 は速報データ）

(2) 福井の交通の現状

昨年 1 6 年ぶりに実施した福井都市圏パーソントリップ調査結果では、福井都市圏の住民の交通手段は、平成に入って自動車の利用が 1. 1 9 倍に増加している反面、鉄道は 0. 7 1 倍、バスは 0. 4 8 倍と減少している。交通手段としての分担割合は自動車が前回の 6 1. 2 % から 7 6. 6 % と増加し、鉄道とバスは前回の 3. 9 % から 2. 6 % と大幅に減少している。

また、本県の道路整備延長距離も H 元年度と H 1 5 年度の比較では、5, 7 1 0. 9 km から 7, 2 8 1. 5 km へと実に 1. 2 8 倍の伸びを示し、クルマを取り巻く環境は改善されている。

代表交通手段別生成量の推移

	H 元		H17		比較
鉄道	41	2.3	29	1.8	0.71
路線バス	29	1.6	14	0.8	0.48
自動車	1,078	61.2	1,278	76.6	1.19
二輪車	259	14.7	136	8.2	0.53
徒歩	352	20.0	209	12.5	0.59
その他	2	0.1	2	0.1	0.98
合計	1,761	100	1,668	100	0.95

(単位：千トリップ/日、%、千トリップ/日、%)

(出典：福井都市圏パーソントリップ調査)

福井県の道路整備延長

	H 元		H15		比較
国(指定)	188.3	3.3	182.0	2.5	0.97
国(指定外)	374.2	6.6	477.0	6.6	1.27
県(主要)	319.2	5.6	418.9	5.8	1.31
県(一般)	575.4	10.1	584.5	8.0	1.02
市町村道	4,253.8	74.5	5,619.1	77.2	1.32
合計	5,710.9	100	7,281.5	100	1.28

(単位：km、%、km、%)

(出典：「道路統計年報」国土交通省道路局)

(3) クルマに依存しないライフスタイル

クルマは本当に便利で、行きたいところにドア・ツー・ドアで移動できる。本県ではクルマへの依存傾向が非常に強く、輸送機関別旅客流動状況では自家用車が 9 割（H 1 6 年度）を超える状況となっている。

しかし、クルマの利用は交通渋滞や運転により生じるストレス、交通事故の危険性が高いなど、莫大な社会的コストがかかっている。

その点、公共交通機関の利用は、定時性が高く交通渋滞や事故に巻

き込まれる危険性がクルマに比べ低く、また、一人当たりの二酸化炭素排出量が小さく、環境に対する負荷も少ない。こういうメリットを県民に働きかけることが必要であり、意識の醸成を図るとともに、クルマに依存しないライフスタイルの実現が重要である。

また、今後、ますます高齢化が進展する中、高齢者の主要な移動手段として公共交通機関が担う役割、存在意義は大きく、高齢者が自ら自由に移動し、積極的に社会参加ができ、多様な生活が送れるような公共交通体制づくりが必要である。

2 観光・行楽の現状

福井県は自然に恵まれ、歴史、文化、伝統に関わる観光資源が数多く存在している。

本県は、県内外から年間約2,200万人の観光客入込客数があるが、そのうち日帰り、通過客が8割を超えている。また、本県の観光入込みを利用交通機関別にみると、自家用車による入込みの割合は増加しているが、公共交通による入込み割合は減少が続いている。

その要因の一つに、本県の観光資源が鉄道の駅から離れた場所にあり、公共交通によるアクセスが十分に確保されていないということがあげられ、観光客の利便性を考慮した公共交通ネットワークが求められている。

【利用機関別割合】

(単位：％)

	H 1 1	H 1 2	H 1 4	H 1 7
定期路線交通機関	7.3	7.0	6.9	6.7
貸切バス	21.6	21.7	21.8	20.6
自家用自動車	67.7	67.2	68.6	69.4
その他	3.4	4.1	2.7	3.3

出典：「福井県観光客数動態推計表」（県観光振興課資料）

「福井」と言えば？・・・遊び場がない、出かけるところがない、など若い世代を中心に、地元の良さ（人、伝統、郷土料理など）を知らない人が多く、遊ぶなら「県外」へ出かけると答える人が多い。

福井県民は、可処分所得に占めるレジャー関係の割合が低い県であるといわれている。

しかしながら、年配層、中でも女性は、「近場でいいところは？」
「楽しいイベントは？」と気軽なレジャーを求めている。

近年、旅行形態は従来の団体旅行から自由のきく個人旅行へと移行している。県内の旅行形態についても、この流れに乗って個人をターゲットにした旅行を仕立てていくべきであるが、市場の規模が小さく、一般的な旅行企画は集客が容易な県外へ出向くものが多い状況であり、気軽なレジャーへのニーズは高い。

また、県外客が県内観光を行う場合、県内旅行業者が、県内の観光地・行楽地へのアクセスにおいて公共交通機関は不便だと認識しているため、公共交通機関を使わずに、貸切バスツアー等で対応している。

例えば、東尋坊・永平寺・丸岡城など県内の主要観光地を運行する路線バスも存在するが、生活路線の維持が優先されるため、観光地直行ではなくマイカーに比べ時間がかかる。この他、バス自体の運行本数が少なく、電車とバスの乗り継ぎが悪いなど問題が多い。

3 福井県民の価値観

福井県民が考える「豊かさ」とは、「心身の健康」が8割以上を占めている。次いで、「安定した家族関係」、「生きがいや目標を持った生活」と続き、「物」の豊かさより「心」の豊かさを求める傾向が出ている。

また、テレビ、冷蔵庫、エアコンなどの耐久消費財が行渡った現在、今後のお金の使い方についての県民意識も、「心身の健康」を実現させるための「健康・医療」分野と「趣味・レジャー」分野が最も多く、ここでも「物」ではなく「体」や「心」の豊かさにお金を使いたいという傾向が強く出てきている。

これら価値観の多様化に伴い、結婚や家族のあり方、仕事・職業観、消費、余暇の過ごし方など、県民のライフスタイルも大きく変化・多様化している。

4 今後の視点（時代が求める豊かさ）

ある程度、生活に必要な物が充足して、「物質的満足」から「精神

的満足」、「マスマーケット」から「個のマーケット」、「既製品型」から「オーダーメイド型」を重視する傾向が表れつつある。

社会が情報化社会に入るとともに、多様な価値観を持つ個人それぞれが望むライフスタイルを実現できるよう、仕事、家庭、趣味、学業などの幅広い選択肢から、やりたいことや欲しいものを選択できる社会環境の整備が求められる。また、情報化社会においては、「日常型」と「非日常型」「ON」と「OFF」の格差（ギャップ）の大きなものが求められる傾向にある。

これら求められる様々な価値観を持つ人が満足できる「本物」（福井の豊かさの種（シーズ））を探し出し、提供することが重要である。

Ⅲ 福井の豊かさの種（シーズ）

1 「本物」の福井の豊かさの種

私たち「福井人」は、「福井には魅力あるものが少ない」「遊び、体験できるものが少ない」などと考えがちだが、県外の人が、「福井は近くにきれいな海、山、川があつてなんてすばらしいところだろう」とか「歴史、文化に恵まれて伝統芸能、地域イベントが多彩」「自然の宝庫でいろんな体験が出来る」「食べ物がおいしい」という県外客の話を耳にすることから「本物」の「豊かさの種（シーズ）」がたくさんあるのに、折角の強みを生かしきれていないと考えられる。

事実、インターネットを使ったアンケートの「じゃらん宿泊旅行調査2006」で、福井県が「おいしい食べ物が多かった」都道府県のランキングで一位となった。「食材の宝庫」として知られる北海道（五位）や、伝統料理の“聖地”である京都府（七位）などを抑えての日本一獲得であり、福井県の魅力は相当高い。

私たちが「豊かさの種（シーズ）」について、思いつくものを書き出してみた。

「豊かさの種（シーズ）」となる強みの分野

- ・ 自然…海、山、川
- ・ 歴史、伝統・文化…イベント、体験
- ・ 食材…米、水、野菜、魚

〔福井地区〕

自然	春：花見、足羽山、足羽川、足羽神社（福井） 夏：カブトムシ・クワガタの幼虫発掘（美山）、磯遊び、江津浦自然公園、赤坂海浜公園（越廼）…岩場の多い越廼の海岸はヤドカリやカニ、小魚などと遊ぶことができる。
歴史	年中：朝倉氏遺跡＋そば（福井）

〔坂井地区〕

自然	夏：ホタル見学、三国海浜自然公園（三国） 年中：牧場体験、おけら牧場（三国・あわら）
文化	年中：工芸体験、金津創作の森（あわら）
食材	春：フルーツ狩り、梨園よねくら（あわら） 年中：パン・シチュー作り体験、ラーバンの森（三国）

〔奥越地区〕

自然	春：花見、弁天桜（勝山）…向かい側の山から眺める冠雪の白山、九頭竜川沿いの鯉のぼり、桜とが一体となった景色を構成する絶景ポイント（県内で最後に咲く桜の花見客で賑わう） 夏：カブトムシ・クワガタの幼虫発掘（勝山）、川遊び、ホタル見学（勝山）、農業体験（勝山） 冬：雪遊び（勝山） 春夏秋：自然体験他、ジャムリゾート（勝山）…マウンテンバイク、パラグライダー、自然体験塾（ツリークライミング・ロープで空中散歩・魚釣り・アウトドアクッキング・石釜ピザ焼き・木上散策など）、芝そり、陶芸、クラフトなどを体験 年中：乳搾り体験、ラブリー牧場（勝山）、自然体験他、六呂師高原（大野）…バーベキュー、ミルク工房での体験（バター、アイスクリーム、カッテージチーズ作り）、ミニ動物園、テニスなど軽スポーツの体験、「日本一キレイな星空」の観察
歴史	夏：化石発掘体験、恐竜博物館（勝山）
食材	春：フルーツ狩り（永平寺）

〔丹南地区〕

自然	春：花見、レッサーパンダ、西山公園（鯖江） 夏：越前海岸のスキューバダイビング（越前町）、農業体験（越前市） 花ハス（南越前） 冬：越前水仙（越前海岸） 年中：越前温泉露天風呂「漁火」（越前町）
伝統	年中：紙漉体験、紙の文化博物館（旧和紙の里会館）（今立） 陶芸体験、越前陶芸村（越前町）、漆器染付体験（鯖江）、越前打ち刃物（越前市）
歴史	年中：花筐公園散策（今立）…謡曲「花筐」の舞台として名高い。桜、さつき、紫陽花、紅葉などが四季を通して楽しめる。他に継体天皇縁の薄墨桜、皇子ヶ池など見どころが多い。
食材	冬：越前かに（越前町）
自然、食材	年中：そば打ち、餅つき体験、志津原リゾート（池田） …かずら橋（北陸唯一）、ふるさとふれあい道場、釣り、バーベキュー、マレットゴルフ

〔二州地区〕

自然	夏：漁業体験（美浜）
歴史	春夏秋：敦賀街中散策、自転車タクシー（敦賀） 年中：清明神社（敦賀）
食材	年中：敦賀ラーメン（敦賀）

〔若狭地区〕

自然	夏：漁業体験＋農業体験 年中：三方五湖、レインボーライン
伝統	若狭塗り、若狭めのう
歴史	年中：明通寺（小浜）
食材	冬：若狭ふぐ 年中：食育の町、体験（小浜）、瓜割の水（若狭町上中）

これらは福井の魅力のほんの一部であり、このような「福井の豊かさの種」を提供できる仕組み作りが必要となる。

2 シーズを活用した公共交通の取組み事例

えちぜん鉄道でも「桜の花見」やパンやシチュー作りなどの「自然体験」「農業体験」、カブトムシの幼虫発掘体験などの企画イベントを実施しており、概ね好評を得ている。

【参考】えちぜん鉄道のツアー参加者感想より

- ・名前は知っていたけれど、こんな風情のある場所とは知りませんでした。（平泉寺ツアーより）
- ・何回も来たことはあったけど、こんな風に説明があったのは初めて。新しい発見がありました。（左義長ツアーより）
- ・子供も大人も一緒に体験できて楽しい。ふれあいと一緒に学ぶ楽しさがあります。（カブトムシの幼虫発掘体験ツアーより）
- ・地元の人たちがこんなによくしてくれて、最初は会費が高いと思ったけれど、おみやげももらえて、おいしいものも食べれて、調理方法も教えてもらえて、来て良かったと思います。（山菜採りツアーより）
- ・こんな小さな子供がまさか自分でパンをこねたりできるなんて、驚きました。料理を「作る」楽しさを感じてもらえたかなと思います。自然体験も農業体験もできて、ここの方に本当によくしてくださいました。（ラーバンの森でパン・シチュー作り体験より）



【その他】

「あったか美人鉄道」（雑誌BEE-PAL）

- ・「駅員さんや地元の人が声をかけてくれる。福井の人はみんな気さくであったかでした。」

「福井のいいところ」（県立大学生）

- ・夜にホテルが見れてキレイ
- ・海は広いな大きいな（海がとてもキレイです）

「福井のイイところ」（雑誌月刊URALA6月号）

- ・足羽川の桜、絶景桜並木
- ・酒、米、水がおいしい
- ・そば、魚がうまい！魚は種類が多いネー！
- ・ソースカツ丼、焼き鯖、方言
- ・人が古風なところ（日本人らしい）
- ・人が親切、あたたかい

「福井のイヤなところ」

- ・クルマがないと交通が不便、交通マナーが悪い
- ・遊ぶ所が少ない、24時間営業の店が少ない

IV 課題（点から線へ）

1 個々の素材の限界

えちぜん鉄道の取組み事例など、個々の取組みの中では成果を挙げているものも見受けられるものの、鉄道、バス等の公共交通機関だけを利用したり、個々のシーズ単体に触れるだけでは、「豊かさ」につながらないということも事実である。

鉄道の駅から先の移動手段として、乗合バスやレンタサイクルの組み合わせが考えられるが、運行便数や運行コースなどにより、その移動範囲にも限界があり、現状においては、公共交通機関を組み合わせた旅行、行楽によって得られる「豊かさ」よりも時間的空間的な制約（コスト）が大きいため、「豊かさ」に結びつかないのである。

2 オンリー・ワンの提案

「豊かさ」に結びつかせるためには、単体の魅力あるシーズとシーズを線で結び、組み合わせることで魅力を更に高めたり、他にないシーズを活用した「オンリー・ワン」のプランを提案できるかどうかである。

「豊かさ」とは精神的満足を与えるものであり、福井人にはわからない福井の良さをまとめ、温泉宿泊などをからませながら、どのように差別化を図ることができるか、どこにも引けをとらない「福井だけの豊かさ」をどう示すかが課題である。

3 持続可能なシステムの提案

公共交通は地域と密着していて、それぞれの交通事業者が困り込み的な営業形態をとっており、地域バランス、個別事情等への過度な配慮が求められるなど、制約が多い。

公共交通と連携してサービスの提供を考える場合、まちづくり、地域づくりといった観点から自由に「つながり」を持たせた提案ができるかどうか、どこがやるのかも課題である。

V 事業案

1 新しい観光の足の提供

1-1 観光型カーシェアリング事業

都市部で既に導入されている「カーシェアリング」を福井観光型にアレンジする。

(1) カーシェアリングとは？

カーシェアリングとは、車を所有しないで、あらかじめ登録されたメンバーが事前予約により共同利用するシステムのこと。

欧米諸国の都市部において、渋滞・駐車場不足といった交通問題解消、環境問題の改善を図ることを目的として、80年代から始まった事業で、車の保有台数が減ることで資源を節約でき、駐車スペースも減るなど土地の有効利用も可能になるなど注目されている。

その効果として、車の維持コストの軽減は当然のこととして、スイスでは、カーシェアリングを導入することによって車の使用量が、年平均9,300kmから2,600kmへと72%近く減少したとの調査報告もある。減少分の内訳として、「公共交通機関への振替利用」、「車の無駄遣いの削減」が主な理由となっている。

レンタカー事業も必要な時に必要な車を必要な時間だけ提供するという意味では、カーシェアリングと同様のサービスであるが、以下の点が相違点となる。

	カーシェアリング	レンタカー
利用者	事前に会員登録が必要	不特定多数
料金体系	会費、使用時間（15分単位の課金）	6、12、24時間、以降1日
予約方法	カーシェアリング車両の空き状況をWeb上で24時間いつでも確認のうえ予約を入れることができる。	予約センターへ電話・FAXにて予約オペレーター対応の為、店舗の営業時間に左右される。
貸出・返却	24時間無人対応	営業時間内有人対応

※6時間程度の利用であれば、カーシェアリングが有利

ステーションの様子

広島での第1号店
横川駅前ステーション



ステーション端末

導入車両はMAZDAデミオ

(2) 福井型カーシェアリング事業の目的

- ①新しい交通ネットワークの提案により、公共交通機関の利用客の増加を図る。
- ②クルマに過度に依存しないライフスタイルの誘導により、地球環境負荷の軽減に寄与する。
- ③観光地の近くまで公共交通機関を利用することにより、クルマを運転することで生じるストレス、疲労、交通渋滞、交通事故の緩和に寄与する。

(3) 事業概要

例えば、あわら温泉に宿泊し、翌日、三国の街中を散策したり、東尋坊に行くのであれば、2～3時間あれば十分である。このような場合、レンタカーでは対応しにくいのと料金面で短時間利用が有利な福井型カーシェアリングの導入を提案する。

- ①えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅近くをメインステーションとする。
- ②想定する利用者
平日は県民の一般利用（通常の会員登録者）
土日は県民利用に加えてあわら温泉宿泊者
（賛同する旅館は法人会員として登録し、宿泊者は特別会員として利用可能にする。）
- ③問題点
車庫法の問題で店舗から2km以内にステーションを設置する必要がある。（マツダレンタカーは福井市内にあるのみ）

(4) メリット

- ①クルマで来なくても、カーシェアリングを利用することで、周辺の観光が可能となる。（あわら温泉のカーシェアリングを他にない強みとして売り込む）
- ②旅館関係者にとって、宿泊者が公共交通機関を利用して来るようになれば、駐車場等のコスト軽減につながる。
- ③平日など近所の住民（旅館関係者も含めて）にも利用してもらうため、一世帯当たりの所有台数が整理されコスト軽減につながる。

1-2 自転車の活用

サイクルトレインの運行、レンタサイクルの活用

健康志向の高まりにより、全国的に自転車愛好家が増加している中、

自分の自転車をそのまま電車に持ち込んで、自宅から遠く離れた海岸や山間部の観光地で気軽にサイクリングを楽しむ。

(1) サイクルトレインとは？

サイクルトレインとは、自転車をそのまま電車に持ち込むことが出来る車両のこと



(2) サイクルトレインの目的

- ① サイクルトレインの実施により、自転車のあるライフスタイルを提案する。
- ② 急増しているスポーツサイクル愛好家や自転車散歩（ポタリング）愛好家に対し、自転車を楽しめる場を提供する。
- ③ これらの取組みにより、公共交通機関の利用客の増加を図る。

(3) 事業概要

～えちぜん鉄道で運行実験中～

- ① 2両編成を電車を運行し、1両は一般の乗客用、1両は自転車持込み用とする。
- ② 運 行 日：日祝日
- ③ 運行時間：自転車を持込める時刻

福井発（勝山行）	8:40	11:17	13:47	16:17
勝山発（福井行）	10:11	12:40	15:11	17:40

福井発（三国港行）	8:35	10:35	12:35	14:35	16:05	18:05
三国港発（福井行）	9:33	11:33	13:33	15:33	17:03	19:03

- ④ 持込み駅：福井, 永平寺口, 勝山, 田原町, あわら湯のまち, 三国
- ⑤ 持込料金：200円（フリーきっぷ）
- ⑥ 問 題 点：自転車を持込んだ際の安全確保の状況や実際の利用状況を整理する予定

(4) メリット

- ① 自分の自転車を観光地等で利用することで行動半径が広がる。
- ② 自転車と電車の利用促進につながる。

【参考】

「コペンハーゲンのレンタサイクル」

- ・デンマークのコペンハーゲンで展開されているレンタサイクルシステムは、「シティ・バイク」を呼ばれ、料金はデポジット制で、自転

車を返す時に戻ってくるシステム。

- ・現在、コペンハーゲンには2000台のシティ・バイクと110箇所の駐輪所があり、利用者はどこに返しても良い。
- ・運営費は自転車のボディとタイヤに施されている広告費から賄われている。

2 企業等の協賛を受け行う公共交通と連携したサービスの提供

公共交通の利用促進の観点から特定の利用者の需要が見込めるコースや期間について、関連企業等から協賛を受け、公共交通と連携したバスの運行など新しいサービスの提供を提案する。

2-1 テクノポート福井や県立大学、福井大学医学部などへの通勤・通学に対する冬期間の公共交通を活用したサービスの提供

(1) 現状

テクノポート福井は近くに公共交通機関がなく、従業員はクルマで通勤するか、近くに家を借りるなどして対応している。

県立大学や福井大学医学部の学生も入学当初は京福バスやえちぜん鉄道を利用して通学する学生がいるが夏休みが終わる頃には、免許を取得してクルマで通学する学生がほとんどである。

しかし、降雪期の冬の期間の通勤、通学は交通渋滞に巻き込まれるとともに、交通事故にあう恐れも高く、特に冬期間の経験値が低い学生は何人かが交通事故にあっている。

テクノポート福井の従業員の中には、通常はクルマで通勤するものの、冬の間だけ家を借りている人もいる。

(2) 事業の目的

- ①冬期間の通勤を公共交通機関と組み合わせることで自宅からの通勤を可能にする。
- ②交通事故を避け安全性を確保する。
- ③冬の間の利用者を安定確保

(3) 事業概要

例えば、越前市からTPFにクルマ通勤している場合、通常期は1時間半程度の通勤時間が、冬期間は渋滞の影響で3~4時間かかることもある。

そこで、越前市~田原町は福鉄を利用し、田原町~西長田までをえち鉄で利用し、そこから先を鉄道と連携したバスを運行させ

る。要する時間は2時間弱程度となり自宅からの通勤が可能となる。

2-2 郊外型商業施設等が集積しているエリアへの通勤、買物利用に対する公共交通を活用したサービスの提供

(1) 現状

県内の大型の商業施設は郊外に進出しており、公共交通の利便性が低いため、対象とする顧客はクルマで来店せざるを得ないため、どの商業施設も大きな駐車場を確保しており、コスト負担が大きい。また、土日など週末の混雑時には駐車場が満車になることもあり、周辺の渋滞と併せて利用客にストレスを与えている。

(2) 事業の目的

- ①公共交通機関と組み合わせることで、駐車場の混雑が緩和される。
- ②交通事故を避け安全性を確保する。
- ③年間を通した利用客の安定確保

(3) 事業概要

～えちぜん鉄道で運行実験中～

- ①えち鉄の「越前新保駅」と新保・大和田地区を結ぶ巡回バス
- ②運 行 日：土日祝（1日9便）、平日（1日6便）
- ③運行区間：アピタエルパ先回り

リライム→アピタ→福井新聞社・福井放送→エルパ
→ワイプラザ・100満ボルト→リカーワールド華

ワイプラザ先回り

リカーワールド華→ワイプラザ・100満ボルト→
→エルパ→福井新聞社・福井放送→アピタ→リライム

- ④料 金：小学生以上一人200円（フリーきっぷ）

- ⑤協賛企業：利用者が見込める企業、店舗から協賛を得ている。
福井新聞社、福井放送(株)、ラブリーパートナーエルパ、
アピタ福井大和田店、コミュニティリゾートリライム、
ワイプラザ、100満ボルト、リカーワールド華
- ⑥問 題 点：更なる利便性向上のため、利用が多い土日と冬期間と
利用が少ない時期の運行の調整が必要

3 オンリー・ワン（繋げて生きる福井の発見）の提案

テ ー マ：「街道をゆく」越前の諸道プロデュース

ターゲット：県内…地域の歴史と先人の足跡の再発見
県外…「ふくいの本物」発見と癒しの旅

□勝山平泉寺

●えちぜん鉄道勝山駅

カーシェアリング 観光乗合タクシー レンタサイクル

●平泉寺、白山禅定道登山口、大野市内観光

カーシェアリング 観光乗合タクシー レンタサイクル

●JR越美北線越前大野駅

□三国湊

●芦原温泉街

カーシェアリング 観光乗合タクシー

●みくに龍翔館、エッセル堤、北前船

レンタサイクル

●えちぜん鉄道三国港駅

□越前陶芸村

●福井鉄道神明駅

レンタサイクル （福井鉄道鯖浦線跡サイクリングロード）
例：<http://www.fuku2.co.jp/seihousen1.html>
<http://www.fuku2.co.jp/seihosen.html>

●越前陶芸村～越前町織田

テ ー マ : 「冬でも安心安全快適通勤プロジェクト」

ターゲット : 県内…通勤・通学者

□テクノポート福井地区・永平寺町松岡教育機関集中地区

- 通常はクルマが主な交通機関となる地区でも、冬は自宅からの道のりが市内混雑地区を通過する場合は大変な困難を伴うため、公共交通のニーズが高まる。

上記 2 地区で、最寄り鉄道駅からの定期乗合タクシーの季節運行

テ ー マ : 「IT や IC カードを利用した生活サービス」

ターゲット : 県内外の生活者

□技術利用の将来形

- IT 技術により交通需要をリアルタイムに把握、集約して、最も効率的な交通手段を提案
例 : <http://www.google.com/transit>
☆さらに、一定の需要がまとまればバス等を派遣運行
顧客が乗るか乗らないかわからないところにバスを走らすのではなく、顧客が必ず乗る時間・場所に交通手段を提供する。
(インターネット、携帯サイト、電話等で事前申込み)
- IC カードシステムが導入され、地域全体で電子マネーが流通
☆交通サービス利用者の情報と商品購買情報等を複合させたマーケティング

現在の情報技術を活用した考えられる新しい体系の提案

VI ベンチャー的課題解決へ

- 1 今回、ベンチャー事業の統一テーマであった「量から質へ ～心の豊かさを考える」を実現させるため、何が心の豊かさにつながるのかを整理し、埋もれている「福井の豊かさの種（シーズ）」を掘り起こし、それらをつなげていくことが人々に感動や精神的満足を与え、心の豊かさにつながっていくものと考えた。

そして、今回の個別テーマである「電車でエコハイク～線から面へつながる、ひろがる楽しみ～」を提案した施策とシーズの組み合わせで実現できると考え、行政としてどのように実現に向けて取組めるのか検討を進めてきた。

前述の事業案は現在、既に存在し、あるいは実行中のものがベースであるが、検討を進める中で、これらに行政が単純に資金を投下していけば、「豊かさ」につながるのか、そしてそれは持続・発展が可能なのか、といった疑問が生まれ、以下の問題点を整理した。

問題点

～実施主体について～

- ・「ニーズ」、「アイデア」、「資源」をつなげ、責任を持って実行する主体がない
- ・サービスを提供する主体について、参加の広がりが少ない
- ・「つながる」ための努力、コミュニケーションが十分でない
- ・個別でなく「全体最適」のために「創造性」を持って「自由」に活動する主体が存在しない
- ・認識の広がりや深さが足りない

～「つながる」というキーワードについて～

- ・観光地等のシーズ同士がつながる
- ・サービス提供者同士（例えば移動手段）がつながる
- ・サービスの提供者とサービスを受ける顧客がつながる
- ・小さなアイデアが発展し、次世代に豊かさがつながる
- ・一見異なる分野がつながる（例えば電子マネーによる商業と交通の連携）
- ・人と人がつながる

これらは、空間だけでなく、時間、人間のつながり全てを含むものであり、これまでの「公共交通維持活性化」、「観光振興」などの行政的視点では「つながり」とその相互作用によってもたらされる豊かさの一部分しか着目していない。

2 新たな組織（仕組みづくりとアイデア実行の主体）の提案

「交通」をテーマに地域のプロデュースを行う主体（3セクベンチャー企業）の設立

①設立趣旨

公共交通機関を活用した観光、行楽等、地域振興をプロデュース

②組織の形態

3セクベンチャー企業

③出資想定者

- ・ 県内観光業界（組合等）
- ・ 自治体（県、市町）
- ・ 交通事業者、レンタカー会社
- ・ 自転車関連企業
- ・ その他（趣旨に賛同する企業）

④行政の役割

- ・ 民間ベースでは回収不可能な「地域全体が受取る利益」（社会的便益）に対する投資を行う。
- ・ 3セクベンチャーが自由に活動できるよう、基礎的、側面的な支援を行う。
直接受益者がアイデアを出し合い、磨き、活動することに対して、安心してその活動ができるような担保を行う。
（えちぜん鉄道方式：出資、活動資金の提供、人的支援等、長期的、広域的な視点で事業を支援）
- ・ 「仕組み」を社会的に広がりのあるものとするため、参加者を募る。

⑤メリット

- ・ 地域バランス、個別事情等への配慮が不要（高コスト要因の排除）
- ・ 広告業、コンサルタント業、プロデュース業などを取り込んだ自由な発想による事業展開。「持続可能な利益」を追求

VII まとめ

1 本提案の最重要点

我々は、「何をすべきか」ではなく、「“誰のために”」「“誰が” 行動すれば一番いい結果をもたらすのか」「そのために最も効果的な“仕組み” “仕掛け” はどうあるべきか」ということを考えて、これまでになかったものを提案したいと考えた。

つまりそれは、ベンチャー企業による事業そのものであり、リスクテイクできない行政の事業とは対極的なものである。

このような現状や行政組織としての問題意識を明確にしたうえで、現状を打破し、「つながる」ことで生まれる「豊かさ」の持続的創出を目指し、アイデアを実行まで移せる主体を、3セクベンチャー企業という形で立ち上げることを提案するものである。

そして、自由な発想によるサービスの提供の実現につながることを期待する。

県庁内ベンチャーメンバーリスト

所 属	職	氏 名
総合交通課	総括主任	河崎 潤一
〃	企画主査	高山 昌英
財産活用課	主 事	水江 友哉
環境政策課	技 師	平井 知里
県立大学大学企画推進室	企画主査	伊東 尋志
恐竜博物館利用サービス室	主 任	小島 啓市
政策推進課	主 事	伊織 里美
市町村課	主 事	西 益男
えちぜん鉄道		増田 千佳妙
福井県観光連盟		坪内 知恵美
マツダレンタカー		高井 正武